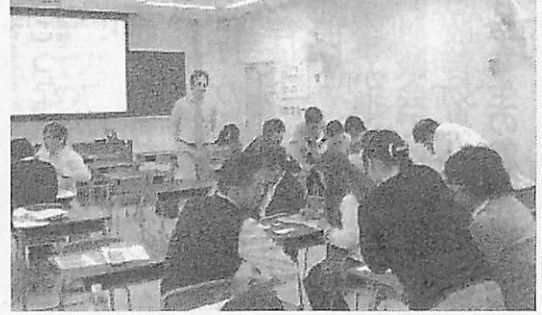


福井高専 数学教育研究会を開催

福井高専は、数学教育研究会「協働を通じた大学等の数学教育の発展を探る」を去る10月17日に開催した。この研究会は福井高専の数学科・応用数学科が企画したもので、米国コロラド州立大学ボルダーク・ステード教授を招き、講演、ワークショップと討論会を約2時間にわたり行い、福井県内外の大学・高専からの教員と学生20数名が参加した。



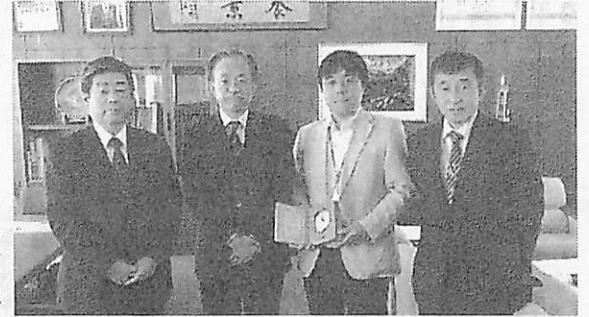
講演「コラボレーション(協働)による微積分教育の変革」では、ここ数年間のコロラド州立大での数学と科学・技術・教育の各領域の研究者と教育者の協働により微積分教育の内容を大きく変わりつつあることを指摘。教育手法としてもグループワークを取り入れたアクティブ・ラーニングを採用し、訓練されたティーチング・アシスタントの協力が効果を発揮していること、また、数値解を求めるためやグラフ化のためにテクノロジーを積極的に活用していることも併せて紹介された。ワークショップⅡ写真Ⅱでは、実際の授業で使われているワインの発酵をモデル化した教材カードを用いて微分方程式を作るグループワークを行った。討論会では、グループ学習の具体的な方法や評価方法などについて、討議や意見交換が繰り広げられた。

また研究会に先立ち、同時期に開催していた「高専祭」を見学したステード教授は、学生の丁寧な挨拶や親切な対応に感心していた。有明高専准教授にマツダ財団から研究助成金

有明高専電子情報工学科の石川准教授が、公益財団法人マツダ財団の学術研究助成に採択され、このほど助成金の贈呈を受けた。

マツダ財団は天然資源に恵まれないわが国で調和のとれた科学技術の向上を目指し、文化への貢献と広く社会の発展につながることを目的として設立された。

採択となった研究題目は、「アナログ集積回路(IC)の検証に着目した技術者教育手法に関する研究」で、今後の科学技術の進歩・発展に大きく貢献するものと判断されての受賞となった。



左から福島校長、永松マツダ財団事務局代理、石川准教授、菅沼学科長

石川准教授からは、「今回の受賞により、電子回路設計などのものづくりと、その検証の重要性を広める取組の推進を加速させ、世界に誇れる高い信頼性を実現できる技術者の育成に寄与したい」との意気込みが語られた。

福井高専がクリーン大作戦

福井高専では10月16日、午後3時から約2時間かけて、地域の美化と高専祭開催のPRを兼ねてクリーン大作戦を実施した。今年、福井高専を起点にJR鯖江駅方面など4ルートに分かれ、通学路などの清掃活動を行った。

快晴のもと、参加した約100名の学生は、ゴミ袋や火箸を手に持ち、空き缶や吸い殻などを拾い集めた。ボランティア活動を通して地域の美化に関心をもち、道路上のマナーをあらためて認識した。(写真は高専周辺の幹線道路を清掃する学生)

